

KOEKARA / ご提案

外部公開版

韓国語の「発音」を、 一緒に引き受ける。

日本語話者向けの発音学習サービス KOEKARA から、
パートナーシップのご提案です。



ご提案の要旨

発音は、教える側にとっていちばん手間がかかり、学ぶ側にとっていちばん独学しにくい領域です。

01

発音だけを引き受けます

文法・語彙・会話は、すでにある教材や講座のほうが優れています。KOEKARA は発音の診断と練習だけを担当し、置き換えではなく補完として入ります。

02

学習者の声で、正解を示します

短い録音からあずかった声で、正しい韓国語の発音を合成します。他人のお手本ではないため、何を真似るかが具体的に残ります。

03

三つの形から選べます

教室の併用、法人・自治体の研修、ファンダム導線。いずれも既存の運営を大きく変えずに始められる形にしています。

本日お願いしたいのは、この三つのうちどれが御社に合うかの見立てです。



01

なぜ今か

学ぶ人は増え続けているのに、発音を測る手段だけが追いついていません。

学ぶ動機は、すでに十分にある

いずれも公開されている数値です。母数ではなく、動機の強さを示す指標としてご覧ください。

47億 USD

世界の韓国語学習市場
(2024年)

844億 JPY

日本のK-POP関連市場

57万 人

ハングル能力検定 累計志願者

2.25億 人

世界の韓流ファン

増えているのは「話したい人」

推しの言葉を聞き取りたい、現地で話しかけたい。読み書きより先に、音から入る学習者が増えています。

足りないのは「聞いてくれる人」

発音の確認は人が聞くしかなく、講師の時間は有限です。結果として、発音だけが独学のループから外れます。

発音指導は、採算が合いにくい

価値がないからではなく、人の耳と時間を一対一で使うからです。

	いま起きていること	KOEKARA が引き受けられること
教室・スクール	発音の直しは講師が一人ずつ聞くしかなく、レッスン時間を圧迫する	自習時間に診断を済ませ、レッスンでは「直す」ことに集中できる
法人・自治体研修	受講者ごとの到達度が見えず、効果測定が感想に頼りがち	五つの軸での推移が残り、研修報告に使える形になる
学習者本人	合っているか分からないまま練習し、やがて発音の練習をやめる	毎回、どこがどう違うかが出て、同じ文をもう一度いう導線がある

置き換えではありません。講師の時間を、いちばん価値が出るところに戻す提案です。

KOEKARA の位置

「誰の声をお手本にするか」と「どの母語に合わせるか」の二軸で見ると、右上が空いています。

自分の声

●
声クローン発音ツール

●
KOEKARA

他人の声

●
汎用の学習アプリ

●
日本向け韓国語アプリ

母語を問わない汎用

日本語話者に特化

右上が空いている理由

声のクローンは技術として広まりましたが、「日本語話者が韓国語でどこを間違えるか」は別の知識です。逆に日本向けの韓国語アプリは数多くありますが、お手本はネイティブの声のままです。

二つを同時に満たすには、誤りの型を母語ごとに作り込む必要があり、そこがそのまま参入の壁になります。



02

三つの形

既存の運営を大きく変えずに始められる形から並べています。

提携の三つの形

どれか一つから始め、効果を見てから広げる進め方を想定しています。

形 01

教室・スクール併用

想定する相手

韓国語教室、オンライン講座

解きたい課題

発音の直しに時間を取られ、レッスンが先に進まない

形 02

法人・自治体の研修

想定する相手

韓国と取引のある企業、自治体の国際交流部門

解きたい課題

受講者ごとの到達度が見えず、効果測定が感想に頼る

形 03

ファンダム・コンテンツ連携

想定する相手

K-POP / 韓流関連のメディア、イベント、ファンコミュニティ

解きたい課題

関心は高いが、学習への入口が重く、続かない

いずれも、文法・語彙・会話の領域には立ち入りません。

形 01 教室・スクール併用

想定する相手：韓国語教室、オンライン講座

課題

いま起きていること

発音の直しに時間を取られ、レッスンが先に進まない

提供

KOEKARA が出すもの

受講者は自習時間に診断を済ませ、講師には五軸の結果が共有されます。レッスンは「直す」ところから始められます。

相談

一緒に決めること

対象クラス・共有する項目の範囲・講師向けの見え方

料金体系は、規模と期間に応じてご相談のうえ設計します。現時点で固定の価格表はありません。

対応プラットフォーム：モバイルWeb・iOS・Android（同じ中身が三つすべてで出ます）

形 02 法人・自治体の研修

想定する相手：韓国と取引のある企業、自治体の国際交流部門

課題

いま起きていること

受講者ごとの到達度が見えず、効果測定が感想に頼る

提供

KOEKARA が出すもの

受講期間の推移が軸ごとに残り、研修報告に使える形で出せます。測れなかった回は0点にせず、別に数えます。

相談

一緒に決めること

受講規模・期間・報告に必要な項目

料金体系は、規模と期間に応じたご相談のうえ設計します。現時点で固定の価格表はありません。

対応プラットフォーム：モバイルWeb・iOS・Android（同じ中身が三つすべてで出ます）

形 03 ファンダム・コンテンツ連携

想定する相手：K-POP / 韓流関連のメディア、イベント、ファンコミュニティ

課題

いま起きていること

関心は高いが、学習への入口が重く、続かない

提供

KOEKARA が出すもの

推しの一言を自分の声で言えるようになる、という短い体験から入れます。生成した音声は共有できる形で書き出せます。

相談

一緒に決めること

扱う楽曲・台詞の権利範囲・配信の導線

料金体系は、規模と期間に応じたご相談のうえ設計します。現時点で固定の価格表はありません。

対応プラットフォーム：モバイルWeb・iOS・Android（同じ中身が三つすべてで出ます）



03

進め方と、お約束

声をあずかるサービスである以上、同意と安全を先に決めます。

導入の流れ

小さく試し、測ってから広げます。最初から全体導入はお勧めしていません。

01

見立て

三つの形のどれが合うか、現在の運営を伺って決めます。



02

試験導入

一クラス・一部署など、限られた範囲で実機をお使いいただきます。



03

測る

五つの軸の推移と、学習の継続率を一緒に確認します。



04

広げる

測った結果をもとに、範囲と形を決め直します。

「測る」を飛ばさないことをお願いしています。効いたかどうかが分からないまま広げると、やめ方も分からなくなります。

声をあずかる、ということ

本人の声を合成する以上、ここを曖昧にしたまま進めることはできません。

同意は、その人からだけ

合成の対象になるのは、本人が本人の声について同意した場合だけです。第三者の声は扱いません。

目的の外に使わない

あずかった声は、その学習者に発音を聞かせるために使います。別の用途へ広げるときは、改めて同意を取り直します。

いつでも消せる

学習者の操作で、あずけた声と生成物を削除できます。消したことが画面上で確認できる形にしています。

測れなかったことを記録する

雑音や録音の失敗で測れなかった回は、0点ではなく「測れなかった」として残します。評価に使われる場面では、ここが最も重要です。

研修や評価の文脈でお使いいただく場合は、この四点を契約前にご確認ください。

次の一歩

- 01 どの形が御社に合うか、三十分ほどお時間をいただけませんか。
- 02 実機をお渡しします。ご自身の声で、一度試してみてください。
- 03 試験導入の範囲と、何を測るかを一緒に決めさせてください。

本資料は外部公開版です。個別の条件・技術詳細は別途ご説明いたします。

K O E K A R A

これからは、コエから。

